



大津京跡

大津京は、667年に天智天皇が大和の飛鳥からうつされた都ですが、天皇の歿後、壬申の亂(672年)によってはかなく消えてしまいました。ところで、この都のことをよく「幻の大津京」などと呼ばれています。現在、大津市錦織二丁目には「志賀皇宮跡」の碑まで建っているのに、なぜ幻の京跡と呼ばれるのでしょうか。このことについて二・三考えてみましょう。

大津京の位置

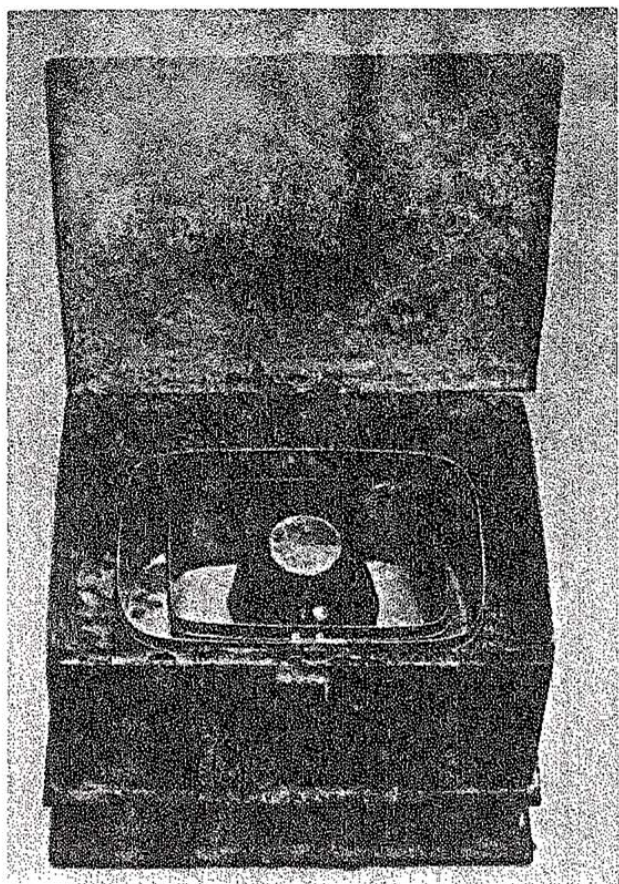
まず、大津京について日本書紀を中心に調べてみましょう。ここでは大津京と書きましたが、はたして京と呼ばれるような都が造られたかどうか疑問です。大津の宮があったこ

とは确实ですが、京というのにふさわしい市街が造られたことを示す資料はありません。したがって、大津京の調査は、天皇の御殿すなわち宮を探すことと、京の区域を探すこととの二面から進められているのです。

日本書紀には、666年に大津遷都の噂が流れたことを“都のねずみが近江に移った”という表現で書いてあります。これが大津京に関する最初の記事です。書紀では、ここにあった御殿や施設として、内裏、涙の台、宮門、新台、西小殿、仏殿、西殿、大藏省、第三倉、大炊省の名を挙げています。しかしこれらの位置は分かりません。それでは大津宮の位置は全く不明かということそうでもなく、その手掛



大津京付近(森昭氏撮影)



国宝舍利容器（近江神宮藏）
崇福寺塔跡出土（山本湖舟氏撮影）

りは二・三あります。

その一つは、書紀の巻28の壬申の乱の記事です。それによりますと、瀬田の戦で敗れた近江方が粟津でその将が殺され、大友皇子（弘文天皇）も山前で自殺されました。翌日、大海人皇子（天武天皇）方の軍が「ささなみ」に集まって左右大臣等を捕えています。おそらくこの「ささなみ」が大津宮や大臣等の邸があったところでしょう。したがって、粟津より北にあったと思われます。

もう一つは、崇福寺建立に関する伝説です。これは扶桑略記等に載せられているもので、天智天皇がある夜夢を見られ、翌朝、御殿から北西の山を見ると怪しい光が見えました。そこを尋ねてその地が靈地であることを知り、そこに崇福寺を建てられたというのです。すると、天皇の御殿は崇福寺より南東にあったことになり、崇福寺の位置が分れば御殿の位置も推測できることを示しています。

そのほか、万葉集の歌などに出る唐崎や志賀の大笛、さらに桓武天皇が曾祖父の天智天



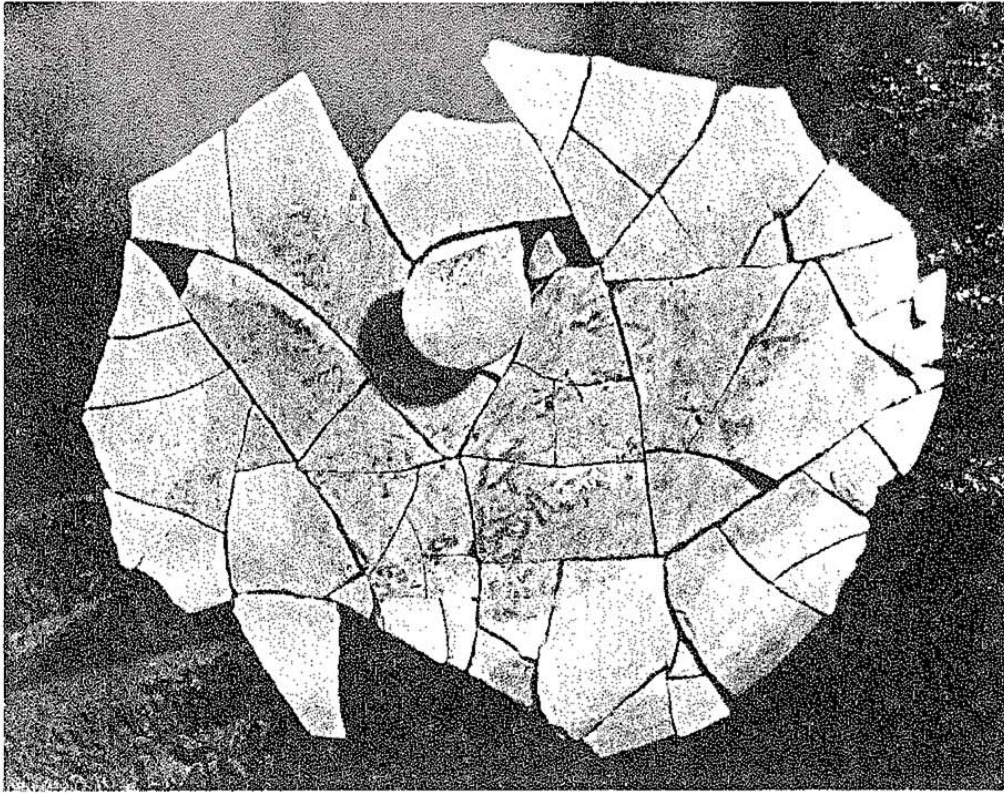
御所の内遺跡

皇をしのんで建てられたと考えられる梵釈寺などもその手掛りになるものと言えましょう。

今までの研究

これまで、大津京の位置について種々の説が唱えられてきました。粟津説、大津旧市街地説、志賀説、穴太説などです。このうち最も有力なのは志賀方面です。しかし、志賀方面でも錦織、南志賀、滋賀里など、その位置はいろいろと推測されてきました。錦織御所之内に石碑が建っているのもその一つです。南志賀の廃寺跡付近も有力ですが、これも決定的ではありません。

前述のように、崇福寺や梵釈寺が宮殿の位置の決定に大切な要素となることから、まず志賀にあるこれらの寺跡についての調査が行なわれました。その結果滋賀里山中の寺跡が崇福寺跡であることはほぼ確実となりました。南志賀の寺跡は、ここに宮殿があったのではないか、あるいはこれが梵釈寺ではないかと考えられましたが、現在までの調査では宮跡の確証はなく、また梵釈寺でもなく、その頃



墨書土器（森昭氏撮影）

木簡

の別の寺跡のようで、現在は南滋賀町廃寺跡と呼んでいます。なお、梵釈寺は、崇福寺と並んで滋賀里山中にあったという説が有力となっています。

新しい研究

湖西線の建設に伴って、大津京に關係のある遺構の調査が行われました。その結果、その頃の遺物がいろいろ発見されましたが、やはり京跡を決定づけるような発見はありませんでした。ただ、際川の傍で土器の蓋に墨書したものが発見され、一部で考えられていたことですが、際川の流域あたりに宮跡を推測することも可能となりました。

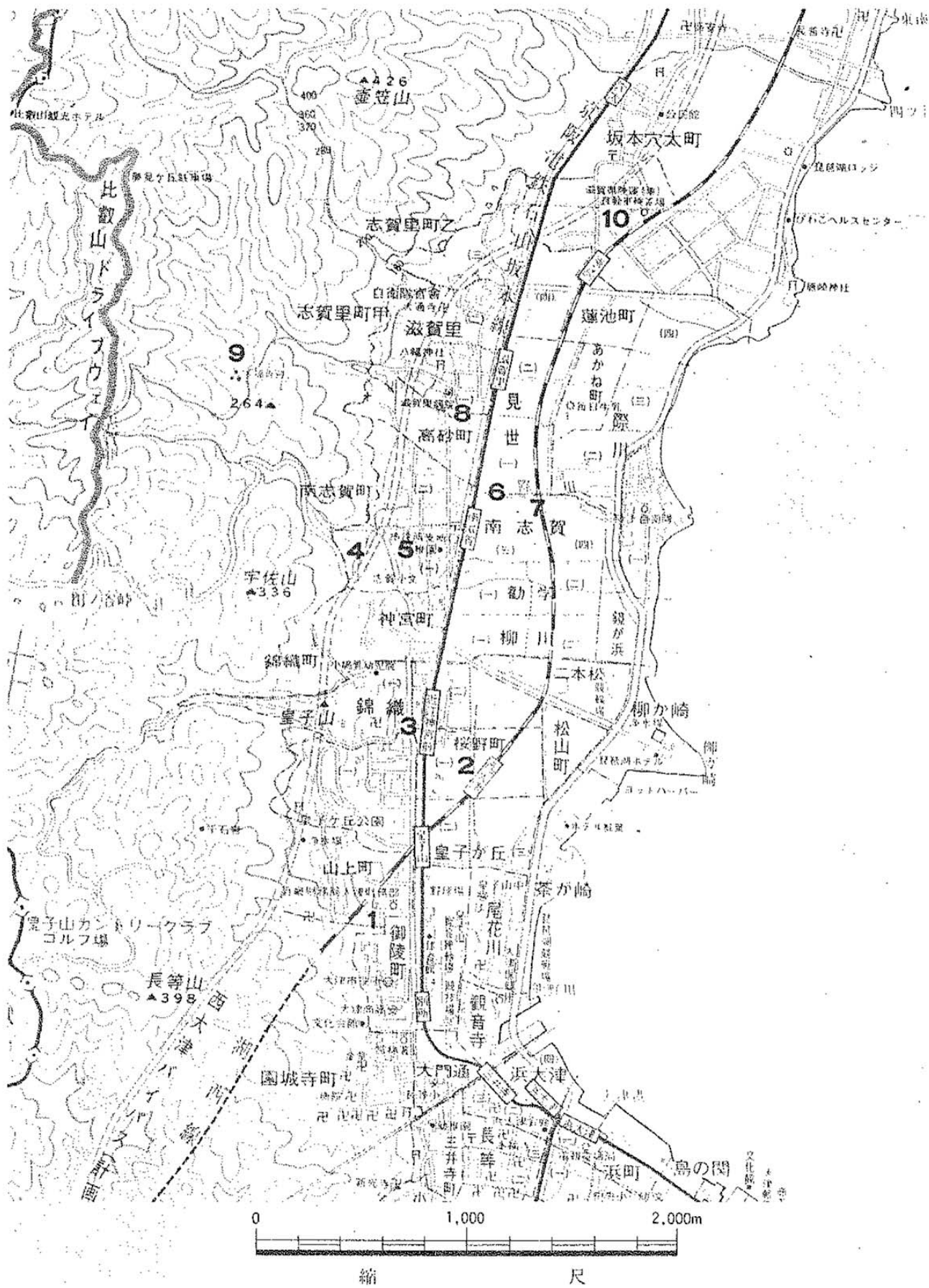
さらに、錦織の石碑の近くで、当時の宮殿か大邸宅に關係があると思われる建物跡の一部が発見され（昭49）、錦織説も再び考え直されるようになりました。これは、当時の人々が勉強のために書いたと思われる木簡が、この遺跡に続く湖西線西大津駅前の溝跡から発見（昭49）されたことと相まって、京跡の調査は新しい時代を迎えたようです。

しかし、宮跡や京跡が確定されるには、まだまだ多くの調査研究が必要で、その結果を待たなければ結論は出ないようです。



檀木原瓦窯跡

南滋賀町廃寺の瓦を焼いた窯跡で、国道のバイパス工事にともなって調査された。



大津京跡付近地図

- 1、弘文天皇陵 2、木簡出土地 3、御所の内遺跡 4、檀木原瓦窯跡 5、南滋賀町廃寺跡
 7、墨書土器出土地 9、崇福寺跡 10、円面硯等出土地（天智朝の遺物）
 従来の宮跡推定地 3、錦織 5、南滋賀 6、際川 8、滋賀里